

環境情報検証報告書

株式会社IHI 御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、株式会社 IHI が作成した「2025 年度IHIグループ環境データ」、「Scope3 カテゴリ 01 排出量算定結果」及び「Scope3 カテゴリ 11 排出量算定結果」(以下、「算定報告書」という。))が、同社により作成された「2025 年度IHIグループ環境情報収集・集計ルール」及び「IHI グループ Scope3 排出量算定方法」(以下、「算定ルール」という。))に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2025 年度とは 2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの期間をいう。検証の目的は、算定報告書を客観的に評価し、同社の 2025 年度の温室効果ガス(以下、「GHG」という。)排出量、エネルギー消費量、再生可能エネルギー消費量、取水量合計、排水量合計、廃棄物排出量及び有価物(リサイクル)量(以下、「環境情報」という。)の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、GHG 排出量については「ISO14064-3」、それ以外の環境情報については「ISAE3000」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象組織範囲は、Scope3 を除く環境情報については、株式会社 IHI グループ(国内外 72 拠点)とし、Scope3(カテゴリ 1)については、株式会社 IHI 及び関連会社(計 29 社)、Scope3(カテゴリ 11)については、株式会社 IHI 及び連結対象の関係会社(計 142 社)とした。また、本検証業務の対象活動範囲は下表の通りとし、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値は検証対象それぞれの総量における 5%とした。

項目	国内拠点	海外拠点
・GHG 排出量 (Scope1)	7 ガス	CO2
・GHG 排出量 (Scope2)	マーケット基準	国別ロケーション基準
・GHG 排出量 (Scope3)	2 カテゴリ(カテゴリ 1,11)	
・取水量合計	上水、工業用水、地下水、雨水・河川・湖、海水	市水、地下水、雨水・河川・湖、海水
・排水量合計	下水道、河川、湖沼・湿地、海水または半塩水、地下浸透	
・廃棄物排出量及び有価物(リサイクル)量	一般廃棄物排出量、産業廃棄物排出量、有害廃棄物排出量、有価物(リサイクル)量	廃棄物排出量、有価物(リサイクル)量
・エネルギー消費量		
・再生可能エネルギー消費量		

検証手続きにおいては、まず、算定ルール等の確認のために統括検証を実施した。続いてサンプリングにより、株式会社 IHI 横浜エンジニアリングセンター、株式会社 IHI 横浜工場、株式会社 IHI 横浜テクニカルセンター、株式会社 IHI 航空・宇宙・防衛事業領域生産センター横浜製造部、株式会社 IHI 技術開発本部、株式会社 IHI 回転機械エンジニアリング 横浜工場の 6 拠点に対し、現地検証を実施した。現地検証では、各拠点における算定対象範囲の確認、GHG 排出源、エネルギー消費状況、再生可能エネルギー消費状況、取水状況、排水状況、廃棄物排出及び有価物(リサイクル)排出状況の確認と監視点の確認、算定・集計体制の確認、活動量データについては根拠資料との突き合わせを行った。なお、現地検証の対象とした拠点の決定は株式会社 IHI が行った。Scope3 の検証では、算定対象範囲の確認、算定シナリオ及びアロケーションの確認、算定・集計体制の確認、排出量データについては根拠資料との突き合わせを行った。

3. 検証の結論

検証の対象とした算定報告書の環境情報において、算定ルールに準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

4. 留意事項

算定報告書の作成責任は株式会社 IHI にあり、環境情報の検証の結論に関する責任は当機構にある。株式会社 IHI と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目 25 番地
一般財団法人日本品質保証機構
常務理事 浅 田 純 男

